

# 「蔵めぐりからまちおこし」事業の概要

NPO 法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

## 1 事業の目的

行田市では、地場産業である足袋産業が衰退し、足袋産業に関わる足袋蔵などの近代化遺産が遊休化・老朽化しつつある。ぎょうだ足袋蔵ネットワークでは、これまで足袋蔵を歴史的資産として再評価し、その再活用による商工観光振興と中心市街地の活性化を提案・実践して来た。今回それをさらに推し進め、文化財登録や説明板設置によって足袋蔵の歴史的価値を明示するとともに、それをめぐるコースを設定し、ガイドブックやパンフレットを発行して“足袋蔵のまち行田”をアピールすることで“まちおこし”に繋がりたい、足袋蔵等の再活用を具体的にプランニングし、中心市街地の活性化を提案して行きたいと考え、次のような事業を実施した。

## 2 事業の概要とその成果

行田市内に点在する蔵などの近代化遺産を巡る「足袋蔵めぐりモデルコース」を設定した。

「足袋蔵めぐりモデルコース」沿線の足袋蔵などの近代化遺産15ヶ所に説明板を作成して建物外部に掲示した。これによって、市民、観光客の足袋蔵への関心が高まり始めた。

の近代化遺産の文化財登録をものづくり大学、市教育委員会と連携して所有者に働きかけ、その同意を得て「旧山田清兵衛商店店蔵（十万石ふくさや行田本店店舗）」について、平成19年2月に国の登録文化財の申請を行なった（他に3件近日申請を予定している）。

蔵めぐりのPRポスター（150枚）、PRチラシ（2,000枚）「足袋蔵のまち行田」を平成19年2月に作成し、市内外の観光拠点に配布して掲示・配布を依頼した。

「足袋蔵めぐりモデルコース」とその沿線の説明板を掲示した近代化遺産のガイドブック「足袋蔵のまち行田 蔵めぐりガイド」（500冊）を平成19年2月20日に刊行し、「ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」が運営するそば店「忠次郎蔵」、「足袋とくらしの博物館」で販売（200部）するとともに、事業PRを兼ねて観光関係機関等に配布（300部）した。

蔵めぐり「足袋蔵再発見の旅～蔵めぐりからまちおこし～」を、市教育委員会と共催で平成18年10月20日の「近代化遺産の日」に実施した。新聞で開催が報道されると大きな反響があり、55名が参加、好評を博した。これを契機に、ガイドツアーの開始が決定した。

「足袋蔵めぐりモデルコース」沿線の説明板を掲示した近代化遺産を中心に、8棟の蔵について、所有者の承諾を得てその商業施設等としての再活用モデルプラン「蔵開きモデルプラン」を作成し、平成19年2月3日に「蔵めぐりツアー＆発表会」を開催してそれを公表した。ツアーには39名、発表会には69名が参加した。ツアー、モデルプラン共に大きな反響があり、その後蔵を再活用しての起業の問い合わせを数多く頂いた。今後はそれを現実化して行きたい。また、この事業の影響が、市が来年度以降、起業のための改修費を助成することを予算化した。事業の内容、成果と、これまでのNPOのあゆみをまとめた「蔵めぐりからまちおこし」事業報告書を刊行（200部）し、関係機関等に配布した。